

# 食と緑が支える県民の豊かな暮らし

## 1. 競争力の高い農林水産業の展開による食料等の安定的な供給の確保

### 尾張農起業支援センターでの就農相談実施状況

農業改良普及課では平成 24 年 4 月に農起業支援センターを設置し、就農希望者に対して情報提供や助言を行い、計画的に就農できるように支援をしています。

平成 28 年度の相談件数実績は、個人 91 人（延べ 232 回）、企業 11 社（延べ 18 回）です。

就農希望者は、実家が農家でない新規参入希望者の割合が 92% と高く、相談では農業の実態や必要となる知識・技術等の情報提供を行っています。また、市町・農協と連携し就農計画の作成支援や研修機関の紹介を行い就農希望者が安心して就農できるように支援しています。

これらの取組の結果、平成 28 年度には 32 名が新規就農しました。また、就農に向けた準備として 8 名が就農計画を作成、7 名が研修を開始しています。今後も、これらの新規就農者が農業に定着できるように技術・営農に関する支援を行っていきます。



就農予定市町担当者を交えての就農相談

### 夏秋系輪ギク「精の光彩」の安定生産

愛知西農協きく部会共選部（部会員 15 名）では、平成 28 年から夏秋系の黄色新品種「精の光彩」を導入しました。安定生産のため、農業改良普及課では、当地域に適した栽培暦の作成を支援しました。

栽培暦の作成にあたり、①現地の試作ほ場 17 か所の耕種概要の聞き取り及び生育、②他産地の栽培事例を把握するなど、情報収集に努めました。

収集した情報をもとに、部会役員と協議を重ねた結果、6～11 月開花作型の「精の光彩」の栽培暦が完成しました。

平成 29 年度の当部会における「精の光彩」の栽培面積は 28 年度の 2.5 倍と、ますます導入が進みます。農業改良普及課では、完成した栽培暦をもとに技術指導を行い、さらなる品質向上を目指す予定です。



他産地視察による情報収集中の部会員

# 1. 競争力の高い農林水産業の展開による食料等の安定的な供給の確保

## 担い手に農地を集積

農地集積するための手法である農地中間管理事業の推進を図るため、5月13日に地域集積・集約化尾張地域推進会議を発足し、平成28年度の重点地区を、稲沢市とJAあいち尾東管内とし、さらに同事業の既活用地区での実績の積み上げを目標としました。

その結果、下表のとおりの実績となり、農政課では、更なる制度の周知等を図っていきます。



地域集積・集約化尾張地域推進会議

H28年度 農地中間管理事業実績													
													(単位:㎡)
市町 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
一宮市					1,211	939			6,814	854			9,818
春日井市												37,952	37,952
江南市											2,951		2,951
小牧市												946	946
稲沢市	3,119							2,226			11,857	5,017	22,219
日進市								2,642					2,642
東郷町									727				727
大口町	15,217		9,897			3,726			1,801			1,187	31,828
計	18,336	0	9,897	0	1,211	4,665	0	4,868	9,342	854	14,808	45,102	109,083

## 用排水分離して、きれいな水を水田へ供給



改修された合瀬川の荒井堰

水質保全対策事業合瀬川地区は、急激な市街化の進展に伴い、農業用の水路への生活雑排水の流入による農業用水の汚濁が問題視される中、用水と排水の機能を分離し、用水パイプラインを新設することにより、農業用水の水質の保全を図ることを目的として計画されました。平成7年度の着工以来、平成28年度には、荒井堰掛り・間々原堰掛り・花塚堰掛りの全てのパイプラインがつながりました。

これによって、合瀬川から取り入れたきれいな水が約27kmのパイプラインを通して、木津用水土地改良区の受益地のうち、約170haの水田地域に直接送られ、ほ場を潤すこととなります。



間々原堰掛りの新境川(整備前)

## 1. 競争力の高い農林水産業の展開による食料等の安定的な供給の確保

### 食品表示の普及啓発研修会の開催

産地直売所の管理者や職員、直売所に出荷する生産者を対象に、平成 28 年度には道の駅で 1 回、直売所で 2 回、それぞれ食品表示研修会を開催しました。

研修会では、直売所に出荷される主な生鮮食品と加工食品の具体的な表示例を説明しました。参加者からは、漬物やジャムなどの手作り加工食品の表示方法などについての質問が多く出されました。

農政課では、消費者に信頼される直売所となるよう、今後も継続して研修会を開催していきます。



食品表示研修会

## 2. 農林水産業への理解の促進と食料等の適切な消費の実践

### 日進市で「いいともあいち地域サロン」を開催

愛知県では、農林水産業が果たしている役割を県民の方々に理解してもらい、積極的に応援していただく「いいともあいち運動」に取り組んでいます。

平成 28 年 12 月 12 日には、JA あいち尾東の日進支店で、ネットワーク会員（生産者・農業関係団体・製造業者）と消費者、学生が参加して、「いいともあいち尾張地域サロン交流会」を開催しました。

地産地消に関する講演の後、取組事例の発表があり、特産野菜「プチヴェール」の加工品の試食と意見交換も行うなど、生産者と消費者の交流を深めることができました。



特産品を試食する学生



いいともあいち  
シンボルマーク



## 2. 農林水産業への理解の促進と食料等の適切な消費の実践

### 「農林水産業体験学習」に関するアンケートを実施

尾張農林水産事務所は、本県の第3次食育推進計画である「あいち食育いきいきプラン2020」に基づき、農林漁業体験学習を関係者の協力を得て、推進しています。

平成28年度においては、農業協同組合を対象にアンケートを実施し、農業団体による「農業体験学習」協力・支援を推進する上での問題点と今後の必要な取組みについて取りまとめました。

その結果、講師（指導者）や土地（農地）の確保や準備に時間がかかるなどの課題があることが明らかとなりました。

今後、農政課では、具体的な聴き取り調査を行うことによって掘り下げ、「農業体験学習」が各市町で進むよう支援することとしています。



稲刈り体験

### 食育推進ボランティア研修交流会

地域における食育活動のレベルアップを図るため、尾張農林水産事務所では、平成28年11月16日に、「食育」活動に携わるボランティアや関係者が参加する「尾張地域食育推進ボランティア研修交流会」を開催しました。

大学教授による講演とワークショップの2部構成で、「野菜に視点をおいた食育をどう進めるか。」を皆で考え、最後にアイデアの発表を行いました。

地域の食育の担い手であるボランティアが、交流しながら共に学び合うことができました。



大学教授による講演



ワークショップ

### 3. 自然災害に強く緑と水に恵まれた生活環境の確保と元気な地域づくり

#### 農業用排水機場の更新整備による防災機能の向上

農業用排水機場は、自然排水が望めない低平地において、農地や農業用施設、公共施設等の湛水被害を防止するため、地域に降った雨を排水機により強制的に河川や海に排水する施設です。

昭和40年代から農業用排水機場の整備が進められてきましたが、都市化の進展による降雨流出量の増大や施設の老朽化などにより、地域の排水機能が低下しており、排水機の増強や更新整備が急務となっています。

このため農地等の湛水被害を未然に防止し、農業経営の安定を図るとともに、地域の安心・安全な暮らしを守るため、農業用排水機場の計画的な更新整備を進めています。



新設された排水機



更新後の排水機場

#### 治山事業による自然災害対策

荒廃した溪流や人家裏等の山腹崩壊の恐れがある箇所について、治山事業を実施しています。瀬戸市定光寺町地内では、荒廃した溪流からの土砂災害を防止するため、谷止工と床固工を施工し、犬山市大字今井地内では、人家裏の山腹斜面に法枠工を施工しました。

治山施設の整備によって、山地災害に対する防災機能の向上を図っていきます。



谷止工と床固工



法枠工



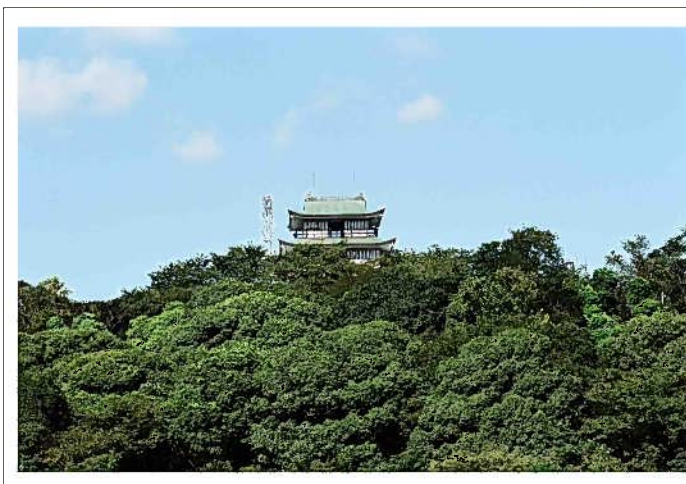
### 3. 自然災害に強く緑と水に恵まれた生活環境の確保と元気な地域づくり

#### 史跡小牧山における里山林整備

史跡小牧山の森林整備を行いました。小牧山は、かつて織田信長の居城であったことや、小牧・長久手の合戦の場として知られ、市民のオアシスとして親しまれています。

小牧市では、緑の基本計画において史跡小牧山を「貴重な自然や歴史を活かした文化財主導型の緑地として整備を推進する」と位置付けており、小牧山北東部の一部で、「あいち森と緑づくり事業」を活用して、竹林等の伐採等、里山林の整備を行いました。

今後、小牧山を訪れる多くの方々に、整備した森林を利用して頂き、森づくりへの理解を深めていただけることを期待します。



史跡小牧山

#### 「直売所」をテーマにパネルディスカッションを開催

J A尾張中央は、平成 29 年 2 月 8 日（水）、春日井市の J A不二支店で、「直売所を交流と感動の拠点化に」をテーマとして、パネルディスカッションを開催しました。

（公財）愛知県農業振興基金の助成事業により実施したもので、直売所職員や生産部会員、農業団体、栄養士会、市、県の担当者が参加しました。

外部講師が情報発信力向上や魅力ある直売所づくりについて全国の事例紹介をしながら基調講演を行ったあと、6 名のパネリストが出荷者の育成や魅力ある農産物づくり、直売所の情報発信、消費者との交流などについて議論しました。



パネルディスカッションを聞く参加者

### Ⅲ 施策体系ごとの目標と目標数値

施策体系	目標番号	施策目標	2015年度 現況数値	2016年度		2020年度 目標数値	備考
				目標数値	実績数値		
柱1 競争力の高い農林水産業の展開による食料等の安定的な供給の確保	1	新規就農者数	29人 (H23~27平均)	30人/年	32人	30人/年	単
	2	基幹経営体数	271経営体	271経営体	265戸	271経営体	現
	3	担い手への農地集積面積	207ha (H26)	257ha	300ha	年間 257ha	単
	4	農地や農業水利施設等の整備・更新面積	—	1,031ha	1,031ha	1,668ha	累
	5	(6)食品の安全・安心の確保と環境への配慮 食品表示の普及啓発研修会の開催回数	2回 (H23~27平均)	3回	3回	年間 3回	単
柱2 農林水産業への適切な消費の実践	6	(1)農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進 「いいともあいち運動」を知っている人の割合	19.6% (H26)	20.60%	平成28年度は県民世論調査実施せず	25%	現
	7	小学校において農林水産業を体験する児童数	10,627人 (H26)	10,400人	12,281人	年間 11,300人	単
	8	(2)食育の推進による健全な食生活の実践 食育推進ボランティアから食育を学んだ人数	26,657人 (H26)	27,200人	27,582人	年間 29,500人	単
柱3 自然災害に強く緑と水に恵まれた生活環境の確保と元気な地域づくり	9	(1)災害に強く安全で快適な生活環境の確保 農業用排水機場・ため池などの耐震化等により防災機能の向上が図られる面積	—	193ha	212ha	5年間で561ha	累
	10	治山施設の整備により山地災害に対する防災機能の向上が図られる面積	—	24ha	26ha	5年間で120ha	累
	11	(2)森林・農地・漁場の有する多面的機能の発揮 間伐等の実施などにより整備する森林面積	—	35ha	63ha	年間 35ha	単
	12	(3)農林水産業を核とした元気な地域づくり 尾張地域の直売所の出荷者数	2,367人 (H26)	2,430人	2,340人	2,700人	現

※現況値は、( )で示した期間、年度を除き、平成27年度実績。

※備考欄の(単)は単年度値、(累)は各年度までの累積値、(現)は各年度における現況値で、実績数値の表示区分



愛知県は、「いいともあいち運動」を幅広い年齢層の県民に親しみやすいものとするため、平成28年11月9日（水）から12月28日（水）までの期間、シンボルマークの愛称募集を実施しました。

応募総数は832点あり、厳正な審査の結果、愛称を「あいまる」と決定しました。

愛知がイメージできる“あい”と、シンボルマークの形や丸ごと愛知という意味を“まる”で表現しており、とても親しみやすい名前になりました。



犬山市にある入鹿池（いるかいけ）は寛永10年（1633年）に築造された、全国最大規模の農業用ため池です。当時としては極めて先進的な「棚築（たなづき）工法」を用いていること、以後380年にわたって地域農業の発展に寄与してきたことから、平成27年10月12日、国際かんがい排水委員会（ICID）から「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

## 食と緑の尾張地域レポート ' 17 （平成28年度の取組報告）

平成29年7月

愛知県尾張農林水産事務所  
〒460-0001 名古屋市中区三の丸二丁目6-1  
電話 (052) 961-1597（農政課直通）  
E-mail [owari-nourin@pref.aichi.lg.jp](mailto:owari-nourin@pref.aichi.lg.jp)  
ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/nourin-owari/>



尾張農林水産事務所